

13)表項目以外に心の支えや安心感につながった出来事

インターネットを使って家族と常に情報交換が出来たこと

家族の支え

昔の上司からの励まし

SARS 対策に取り組む従業員間のいっそうの協力、団結

SARS に対する弊社香港現地会社の取り組み

マスクやウエットティッシュの送付。

主な発症者が当地香港に血縁のある中国人であったこと。日本人に発症者が出なかったこと

会社内及び日本人に感染者が出なかったこと

香港政府からの職場伝染はないという情報

香港の英国地元紙 SCMP で感染ビルの詳細が発表されて、とにかくどこに行ってもいけないかがわかるようになったこと

北京市長と衛生担当相が更迭された時、本土政府が本腰で取り組むという姿勢がわかり安心した。

- ・ 最後に頼りになるのは自分

C 現在（注 7月末～8月下旬）の気持ち 考え方

【15】 SARS の流行以来、最も不安の強かった時期

	人数	%
2月	1	0.9%
3月	9	7.8%
4月	75	64.7%
5月	19	16.4%
6月	5	4.3%
無効回答	5	4.3%
無回答	2	1.7%
合計	116	100.0%

【16】 その時の不安を 100 とすると、現在は何%位に下がったと思うか。

	人数	%
0%	31	26.7%
1-9%	6	5.2%
10-19%	50	43.1%
20-29%	10	8.6%

	人数	%
30-39%	9	7.8%
40-49%	0	0.0%
50-59%	5	4.3%
60-69%	0	0.0%
70-79%	0	0.0%
80-89%	0	0.0%
90-99%	1	0.9%
100%	0	0.0%
無効回答	3	2.6%
無回答	1	0.9%
合計	116	100.0%

【17】 SARS 再流行への不安

- 1) 非常に不安 2) 少し不安 3) あまり気にしていない 4) まったく気にならない

	人数	%
1	20	17.2%
2	58	50.0%
3	30	25.9%
4	7	6.0%
無効回答	0	0.0%
無回答	1	0.9%
合計	116	100.0%

【18】SARS に関する日本のマスコミ報道についての感想 意見(自由記述)(回答率 83%)

◆取り上げたタイミングのずれ

取り上げる時期が流行ピークを過ぎた後であり、遅すぎる。かえって時期はずれの対応を迫られることになった。(ニュースを見た東京サイトが焦り、沈静化したにもかかわらず種々対応を指示したため)

実態がタイムリーかつ的確に伝えられていない。ほとんど収まっていた時期においても台湾、中国本土と十把一からげ性的に取り扱われていた。

過剰 SARS が沈静化している 5 月末頃に沈静化しつつある状況をきちんと伝えてほしかった。

日本、香港間の認識のずれ。例えば初期の無関心、WHO リフト後の過敏さ

香港の報道より少しずれがあり、特に5~6月は北京 台湾が報道の中心になり、日

本のマスコミよりの情報収集は役に立たなかった。

いつもながらピント外れ。香港で深刻になっている時はあまり報道がなく、香港で治まって中国がピークの時に、さも香港で深刻のような報道をしている。情緒的で先導的な報道が多い。

日本のマスコミ＝「日本経済新聞＋NHKワールド」という前提でお答えすれば、香港の現地駐在員の感覚とは少しずれていたとおもう。但しこれはSARSに特有の事象ではなく、常にある話。かつ日本以外のマスコミについて不案内なので比較してのコメントはできません。

◆当事者への配慮の欠如

働いている(住んでいる)人間のことをあまり意識していないと感じられた報道については問題ありと感じていた

香港在住日本人の立場にたった報道かほとんど見られなかった。

- ・ 当事者意識も無く、全く配慮の無い視聴率のみを目的とした取り上げ方が多く、亡国の報道である。香港よりも北京を意識した報道が目立った。

日本のマスコミには全く失望した。香港をまるでバイキン扱いするのは許せない。正しい内容を報道すべきである。

◆無責任さ

謎の死の肺炎というパニックを増長するような報道は香港に住んでいる人々にとってとても極めて不愉快であった。事実、対策、感染の確度などを正しく報道すべき。また沈静化しつつある頃の報道は逆に全く報道もされず、悪いイメージを定着させっぱなしで無責任

最低のヒステリックな報道で無責任なコメント。非建設的なコメントが散見され不愉快極まりない

全く無責任である。興味本位の取り扱いしかしていない。諸外国がいち早く対応する中で、国としてどうあるべきかの視点を持った報道が全く無かった。

その時だけ。過ぎれば何も言わない。無責任。たぶん来冬にまた起きても小さい扱いだらう。日本人が感染すれば別だか。

ピークだけを捉えて煽っている。芸能情報と同程度、無責任。

◆いたずらに不安を煽る、過剰報道→正しい内容の報道を

過剰反応、不安感を逆に煽る

徒らに不安感を煽るばかりで正しい報道がなされていないと思った。改めて日本のマスコミのレヘルを認識。

- ・ 情報過多。野次馬的な報道が多く、視聴者が当事者意識を持つに至らないレベル(ただ単にアップデートな情報を「知っている」だけ)。特に日本人の発症者がいないことの報道は国民に安心感を与えたのではなく、怠慢感、危機意識の低下をもたらしたと思う。

不安を煽っていると感じた。(報道が被害の面に偏りすぎ。実際の患者の実態 病人 老人 貧乏人が中心 人子割合など冷静に報道してほしい。)正直日本の交通事故や自殺のほうかよほど大問題では?

感染者や死亡者の"累計"を報じるばかり。要は大変だと言いたいだけと感じた。当事者としてはどの程度安全なのかそれとも危険なのかという尺度を提示するのが非常時のメディアの務めと思うか、メディアは"ニュース"を探すばかり。これほど失望させられたことはない。普段から全く期待などしていないか。

日本でも毎年インフルエンザで1000~2000人、肺炎で4万人が病死していることを考えれば、SARSも健常者にとって特別恐れなくてはならない病気ではありません。もう少し科学的な報道を望みます。

あきれはてた

過熱報道。やらせ報道は許せない

すんでいる人を馬鹿にしている。過剰報道で腹立たしい

過剰な報道が多いように思われた。現地での取材をもっとしてから放送すべきと思う。事実と違う(現場の状況か)

- ・ 過剰、興味本位。日本人の第一号感染者を待ち望んでいるかのような印象を受けた。

極端すぎる。一時期の騒ぎを数ヶ月続けて。

未知の病気ゆえやむを得ない面もあるか、現象のセンセーショナルな報道が中心で、病気への対策等の報道があまり見られず、役に立つことが少ない。

誤りが多いと思います。特にTVは映像を作る必要から、過度に被害報道を煽ると言うことが良く理解できました。マスコミ報道は強く批判されるべきだと思います。

不安を煽るような報道ばかりで特に流行地域の現状を正しく伝えていないと感じた

過剰。香港在住邦人に対するイメージを悪くする。

大げさな報道が多い(ワイドショー的)

誇張すぎて真実を伝えきれていなかった。

#### ◆その他

Too much との批判が多いか、個人的には自然のような気がする

リーズナブル

- ・ "事実"以外のことは無視していた

不安を煽る報道が多かったし、多くの情報が手に入ったので、特にマスコミ報道で役立つ知識を得たとの覚えもない。

かなり nervous な感じを受けた。もっと中国に情報開示を求めてよい。

- ・ 台湾医師の関西旅行に関する報道は少しこっけいだった

香港中か危ないと思われていたか、マスコミの責任だけではなく、日本人の国民性でしょう。

特に何とも思わない

【19】SARSに関する日本政府の対応（渡航延期勧告、帰国時の10日間自主隔離、空港の検疫体制、等）についての感想 意見（自由記述）（回答率82%）

◆厚生労働省への批判

厚生労働省の対応はお粗末だったと思います。特に海外に居る日本人への情報提供、サポートが不十分だったと思います。

◆外務省（領事館）への批判

現地窓口となる総領事館はマスコミ誘導、対厚生労働省への働きかけ等において結果として機能を果たしていない。

日本大使館（領事館）の対応がほとんどなかったことは予想できたとはいえ残念。

日本政府、大使館筋の初期情報自体が誤ったものを含んでおり、それに基づいた延期勧告、隔離措置は根拠が薄弱である。対応が非常に遅い。

◆縦割り行政への批判

外務省、厚生省との横の連絡なし。延期勧告解除後も長期にわたる10日間自主隔離は全くナンセンス。

◆感染地域在留邦人への支援要検討

中国、香港等海外にいる日本人が感染した場合の対応要検討。

対応自体についてやむを得ない部分もあるも、SARS感染地域に滞留している者のため十分な数の医師の派遣、日本人向け専用の診療所の確保等検討してほしかった（院内感染が怖いため、あらゆる病気にかからないようにするストレスが大きかった）

日本政府の対応にも失望している。自国民の安全も大事であるが、海外に在住している邦人に対する救出、安全をとどのように考えているのか。その対応の遅さにはがっかりしている。

香港駐在員に対する的確な情報 支援が少なかった

◆行き過ぎた対応（政府以外）

当然SARSを日本で流行させないよう対応すへき。但し、子どもの学校などで地域に関係なく出張より帰任した父やその人たちと接触した場合、同じ扱いになるなど、行き過ぎ対応を個別で行っているところがあると聞き驚いた。

◆日本から見放された感覚

判断基準が無い場当たりの、責任回避的な対応。「棄民」という言葉を思い出した。

しょうがないと思う。帰国時の10日間自主隔離については、日本人として見放された気がする

◆10日間自主隔離勧告の解除の遅さ

全体的な状況から判断すると、10日間の自主隔離等は全く不要であったのにも拘

らず、想像以上に長い期間隔離対応を進めていた等、行き過ぎた部分があったように思う。

- ・ 10日間自主隔離勧告の解除のタイミングが遅かったように思う

帰国する日本人のみ10日間の検疫を助言する等現実的ではない規制まがいの厚生省指導にはかかりさせられた。その間台湾の医師の感染騒ぎ等もあり、全く有効ではないのに解除もしないのにはあきれた。

解除の時期、方法について明確にすべき

◆10日間自主隔離勧告への批判-実効性の疑わしさ-

SARS 上陸防止の空港検疫体制は厳しさを要求されても良しとするか、厚生労働省が出していた10日間自主隔離は抜け道が多く無意味で経済の停滞を引き起こしていた。

10日間の自主隔離は無意味。何を根拠にしたか不明。偏見につながった。

10日間自主隔離ルールは根拠が少なく、実効性に乏しい。

10日間の自主隔離はばかばかしい。香港、台湾からの観光客を無条件で受け入れているのに日本人だけ隔離は変。政府の対応が企業の過剰反応を引き起こした。

10日間自主隔離について、守るのは日本人だけであり、中国 香港 台湾からの旅行者は守らなかった。ルールを作るなら強制にするか、又はルールが無いほうが良い。

国会議員が中国から帰国後2日しか自主隔離しなかった事実は本来もっと重くとらえ、場合により同仁の拘留、強制隔離に踏み切るべき。

日本のマスコミ報道と同様、現地で通常通り業務を続けていた我々からすると、極めて過剰反応的であったと強く感じました。特に「帰国時の10日間自主隔離」という対応はナンセンス以外の何ものでもないという印象を強く持ちました。

◆10日間自主隔離勧告への理解

帰国時の強制隔離については(実質強制?)我々香港在住の人間には厳しい感もあるか、感染予防の観点からはやむなし

◆渡航延期勧告への理解

渡航延期については「いたしかたない」と思う。

◆空港の検疫体制への批判 - 検疫の不徹底 -

空港の検疫については実効性に疑問あり。対応が後手になることが多い

日本国内の空港検疫体制の確立が遅すぎ。

空港の検疫体制はかなり「いいかげん」な気がした。

空港の検疫体制も自国民には厳しかったものの全体としては甘かったのではないかと思う。

- ・ 空港での検疫が従来通り素通り状態。日本への感染者流入を防げる体制ができていなかった。

空港の検査体制が全くなっていない

SARS禍においても香港人は多く日本へ旅行していた。検査体制にも疑問を感じる。

その間香港人が制限なしで日本に入国しており、日本人にのみ10日間の自主隔離要求してもほとんど無駄と感じていた。

とにかく日本に持ち込むなという姿勢。SARS流行中に多くの香港人が訪日していたことと矛盾

「日本の入国は審査が甘い」との評判が立ち、香港人旅行者が大挙して5月に日本観光旅行を行ったことは残念。韓国や台湾のような厳格なSARS封じ込めを行うべきだったと思う。

日本人に限定した10日間の自主隔離はナンセンス。検査体制を強化することであれば海外からの渡航全ての制限が必要では？

危機意識、管理が甘い。対象国からの入国は拒否して国民を守るべき

- ・ 流行地域からの渡航を禁止すべき

渡航延期勧告はやむなし。あとは飛行機の中での検温程度で充分。所詮強化しても100%は防げない。

◆日本としての主体的判断の欠如

必要な時期に必要な措置が取られず、終息期になって、より過敏な対応を取った政府の動きは、国際社会でのプレゼンスを更に低下させた。

情報が直接取れないこともあり、他国に追随し、対応が遅い

当地に来て実態を体て感じた人達が作った規則ではなく、どれ程危険か判らずに適当に決めただけ。

実態と乖離したWHO追従型の方針に疑問あった。

WHOに追随するばかりで自国としての判断がなかったと思う。

主体性がない。事実をよく見ていない

◆一時帰国した子女の学校問題

一時帰国した子女の学校問題について何もフォローがない。現地との情報交換が領事館を通じてどこまで情報を得ているのかが全くわからない。

◆全般的なコメント(意見なし)

特に何も思わない

特になし

仕方ない対応だと思うし、別段感じるところはない

ヘストとは言えないか、こんなものでしょう。

他に良い方法がなく、やむなしか。

◆全般的なコメント(批判的)

ハカミたいな非現実的な対応

形式的。真のコンティンジェンシープランがない。  
台湾医師の例で大いに失望した。危機管理意識の低さ、日本官僚意識がまだ低い  
致し方ない面もあるが、きめ細やかさに欠けると感じた。かなり保守的な印象。  
やむを得ない措置だったと思うが、実効性は疑わしいと思う  
一時期は少々コンサバなのではないかと感じた。対外的な部分では、日本のことし  
か考えてなかったように感じられる。  
感染者が出ていないにもかかわらず、過剰に反応しすぎだった。  
過剰反応ではと思う反面、国民の安全に対する責任を考えれば納得できる。  
感染者が出なかったと言う発表は嘘だと思っているので、基本的には信用できない  
と思っています。  
対応が中途半端である。もう少し徹底させないと効果が出ない  
意味なし。対応方針が中途半端  
あいまいであった。  
最終的にはそれなりの水際の危機管理体制になったかいかんせん取り掛かりが  
遅かった。  
対応が非常に遅い。時期を逸していた

◆全般的なコメント(肯定的)

慎重に対応する努力評価に値する  
日本に残した家族に対する安心感につながる  
思ったよりも迅速だったと思う。  
当然の対応  
妥当

【20】SARSに関する会社の海外赴任者への対応についての感想 意見（自由記述）（回  
答率 78%）

◆対応に満足

弊社の場合、現地の判断を重視し、対応は適切であった  
同情的であり、比較的迅速な判断、対応が採れたと思う。  
弊社の場合、必要にして十分な対応であった。また現実的なものであったとも思う。  
決して100%満足している訳ではないが、あの状況下ではよく対応してくれたと思っ  
ている。

家族帰国費用負担、一時金、情報提供等相応に満足している

- ・ 他社に比べてケアしてもらえたと感じる
- ・ 非常に対応は良かったと思う

当社は現地側で十二分の対応ができたので、満足。本社側からは明確な支持少な  
く失望

◆対応の遅さ

横並び意識が強く、自社独自の決断がてきなかった(決断が遅い)

本部の対応が遅い

- ・ 戦争等危険地対策に比べ経験のない事態であったため、対応配慮に遅れがあった。

前例が無いことなのに、イラン戦争等の違った前例にとらわれ、柔軟な対応が打ち出せなかったと思う。また、会社が出来るとは最後は金銭面での配慮であるが、これもまた割り切りが無かった。

- ・ 他に比べ初動が遅いと感じたが、内容的には特に不満が残るものではなかった。厚生労働省の10日間ルールと護送船団方式による日本の大企業の遅すぎる出張規制の緩和が現地ヒジネスパーソンには大変苦痛であった。

◆対応の過剰さ

過剰反応ではと思う反面、国民の安全に対する責任を考えれば納得できる。

4月初頭段階で中国本土から帰港したら感染を疑われ、病院で検査を受けさせられた。結果はシロだったが、会社側の過剰反応には疑問を感じた。

◆病原菌扱いへの怒り

身近な自分の出身職場は非常に暖かかった。会社全体としてもよく気にかけていただいた。しかしごく一部、我々を病原菌扱いする者もあり、腹か立った。

◆本社優先、駐在員への配慮は後回し

感染地域への赴任者へのケアよりも、本社従業員への感染の可能性への心配をよりしていたような印象をもちました。

大企業病で protective てあった。駐在員のことより本社のことを優先していた。

会社全体を考えてのルール策定と感染地域駐在者への配慮と両面での対応が必要だが後者が忘れられがち

社内外への対策には充実したものがあつたが、赴任者への配慮には不足を感じた。

国の対応も同様であるが、全く心をもった対応が出来なかった。視点は常に”日本”にあり、外に居る日本人への対応は二の次である。”日本にSARSを持ち込まない”が先決事項であった。

当初は日本の事、本社の事を第一義的に考えていた感あり。現地の事は現地、現場で判断せざるを得ないところあり。やむを得ないところはあるが。

適切であった。特に海外現地法人店内での対応。本社のほうはやはり”とにかく日本に持ち込むな”という思想で全てがまわっていた。

報道の影響からかSARSそのものを理解しないままいたずらに海外赴任者の切り離しを行った、形式的な対応だと思った。

香港に取り残された者としては辛い時期であったが、原因不明の病気に対する措

置としては「日本を守るために駐在員を見捨てる」的な対応もやむを得ないのではないかと思う。(逆の立場となった場合を考えると尚更)。

- ・ 会社も日本政府同様であった。海外駐在員の救出、安全をもっと考えるべきだと思う。

◆冷たい印象

全く他人事のように考えられていると感じた。軸足が常に日本側に置かれており、我々駐在員に対して親身に心配してくれているという実感なし。

制度的には家族の帰国費用の会社負担、ハードシブ手当ての支給、単身赴任扱い等他社と比べて支援は厚かったと思うが、心情的な面では冷たい印象を受けた。

当事者の気持ちになって考える姿勢なし。今の日本の一般的な対応か。

やむを得ないがもう少しシンパシー(心)のある対応または見舞金(hardship)などがあってもよかった

あまり心がこもっているとは思えない

◆自分の身は自分で守る

自分の身は自分で守ることが第一義であり、会社の対応としてはこの程度で良いと思う。

◆特別手当の希望

香港にとどまることに対する特別手当等があればよかった

◆実態の理解不足

マスコミに踊らされていた。実態把握能力に欠乏

実態と乖離したWHO 追従型の方針に疑問あった。

日本から隔離するという対応(本社には来るな!)は不満。知識不足もあいまって実態とはややかけ離れた対応だったと思う。

不満極まりない。事態把握のために体を張って飛んでくる者も居ない。ただそれに乗じて会社から便宜をふんだくろうと企てる社員も多く、情けないと思った。

帯同家族の一時帰国判断には感謝するが、危機管理全体の動きには不満か今でも残っている。(対応の遅れ、現地情報の理解不足等)

◆欧米企業との差

欧米系企業と日本の企業との差が大きいと思いました。日頃も社命による海外赴任に関する待遇に大きな違いがあると思いますか、考え方を改めて、海外赴任者の安全確保や待遇改善に真剣に取り組むべきだと思います。

◆主体性の欠如

それなりの対応を行ったと思うが、前例とか、日系企業の中で最初になることをいやがっていたところもあり、その点を今後改めてほしい。

役所にフォローしか考えぬ無責任な態度は腹立たしかった。

政府や領事館等の勧告 情報の程度により対応が決まっていたようであり、自主的

にLocal Staff等の不安や危機対応を行っていたかどうか改めて考える必要はある。

各社各様の対応であったものと思われるが、それぞれの会社規模、人員、本社方針等があるため、それぞれが判断して決めるべきと思われる。

◆会社の論理を優先

会社の論理が前向きに出た対応で企業としてはやむを得ない面はあったと思うが当事者としては非常に残念に思う。

概ねリーズナブル。但し、社内に感染者が出たと仮定した場合、どこまで人命優先の施策かうてたかはわからない。

D その他、意見や感想（例 あればよかったなと思うこと、SARS 禍で良かった点、大変だったこと等）（自由記述）（回答率 27%）

◆SARS 対応の過敏さへの批判

- ・ 今回の件で尽力された方々の労を承知の上で敢えて申し上げますと、少し騒ぎすぎ。この手の話は人類の歴史上いくらでもある筈。寧ろ軽微な類。SARSで外出を控える位なら、交通事故に遭って死亡する可能性を常に考慮する必要があると思うが。SARSよりもより深刻な感染症かると聞いていますし、広東省では色々な病気かあるとも聞いています。何故SARSだけかこれ程大騒ぎになってしまったのかということについて知りたいと思います。

大変だったか駐在していればまああることです。社内から感染者が出なかったことはラッキーだったと思う。

◆日本のマスコミ批判 —正確な情報提供を—

振り返ってみるとやはりSARSに関するマスコミの取り上げ方如何で一般の人々の行動ならびに精神状態が左右されることになるので、マスコミの責任は重大だと思いき知らされた。まずは医学的 衛生的見地から感染の可能性にかかわる分析を冷静に行い、予防的措置(有効な方法)を知らしめ、むやみに騒ぎ立てることのないようにコントロールすることが肝要と思われる。

日本のマスコミ、報道が非常に一面的で、正確な現状を報道する点にもう少し配慮があっても良かったのではと思った。また、マスコミに登場する所謂”専門家”の知識不足、必要以上に誇大した発言内容等に疑問があった。

SARSにより情報収集とその分析の重要性を認識しました。また日本と比較しても、典型と非典型の違いはあるものの、肺炎の危険性については大きな違いはありません。にもかかわらず、冷静さを欠き、いたずらに恐怖感を煽るNHKの報道には大いなる自省を求めたい気持ちです。

事件の当事者になった気分であった。反面日本の新聞の騒ぎようには冷めた気分させられた。

◆本社対応への批判

本社の駐在員に対する対応が非常にまずい(モラルの低下)(大企業病)  
社としての対応も情けないものであった。現地情報はタイムリーに発信したものの、日本サイトから積極的に傾聴して対策する姿勢は皆無であった。本社からの支援、慰問なども、現地要請に基づくものであり、一切のイニシアティブが取れなかった。元々リスクマネジメントの苦手な国民性(日本人)の中で、更に弊社は鈍感な感覚を持っていることが斥き彫りになった。これをひとつの貴重な経験、糧とし、今後のリスクマネジメント体制のペースを確立してもらいたい。

◆日本政府 香港政府 中国政府への批判 評価

-総領事館への批判 評価

SARSに関する情報が混乱していた時期に行われた領事館主催の医務官説明会。中味に不正確 医務官個人の考え等が混在し、結果的に在留邦人間の不安を煽ることとなったのは残念。一方、領事館のHPがSARS禍後半に充実してきたことは良いことと思える。

-10日間自主隔離措置への批判

総領事館主催医務官は説明会で、マスクをきちんとすれば感染は有り得ないと断言したそうですか、そうであればなぜ5月、既に香港ではSARSが沈静化している中で10日間自主隔離措置をとったのか?通常の会社勤めでは日本帰国後の10日外出できない=日本には帰れないことと同じです。米国等の対応とのあまりの違いに強い反感を覚えました。

-香港 日本政府はより厳しい対応を

- ・ 拡大感染を防ぐため、当初よりもっと厳しい対応措置を香港政府は採用すべきであった。特に隔離政策が最も有効であり、人々に安心感を与える。また、入国時の体温チェックも初期の段階より実施すべきであった。このことは日本政府にもあてはまり、まったくこれらの対応を取っていなかったのに、日本に感染しなかったのは奇跡である。強い対応が人々に安心感を与える。

-中国政府の情報開示

中国の情報開示が進むことを期待したい。

◆日本人のメンタリティーの露呈

日本人のメンタリティーの特異性に改めて失望した。自国さえ平和であれば近隣国であつても自国は一切リスクを取らない。その精神構造は今回の SARS 禍でも露呈された。

日本人の集団性のようなものを感じた。(個人よりも周囲を気にすること)

- ・ SARSのおかげで中国や韓国、アジアの国々が靖国参拝問題を批判するのが身にしみて理解できた。日本人は集団ヒステリー状態に入りやすい環境にあると認めざるを得ないと思う。特に報道が最低。最もタマチャンかトップニュースになる国だか

ら仕方がないのか。

- ・ 1ヶ月強家族を日本に帰国させたか、5月初めにはまた香港に引き纏めました。日本という国は残念なことに、「危険度」を把握する力が不足し、「ヤジ馬」が多く、これがために帰国した駐在員家族を好奇の目で見たりする風潮があると思います。小生の家族は幸いかかることはなかったのですが、自分自身、1ヶ月強、かなりの回数で広東省に入ったけど、完全に防御できると思ったので、そんな日本に置いとくより、自分が家族を守るんだ、という気持ちで呼び寄せ、結果的には家族の絆も強くなったかな。

#### ◆SARSの個人への影響

SARSの影響で会社の実績が激減したことにより、担当業務を変更せざるを得なかった。SARSかなければと思うと人生が大きく変わっていたように思われる。

香港は中国大陸とは異なり、情報公開が徹底しており、香港衛生署のホームページの情報は信頼が置けた。但し、仕事の中心が大陸、しかも感染源の中心である広東省一帯であり、頻繁に出張することには不安があった。4月後半に私用で帰国した際に、ホテル等から宿泊を拒否されたり、実家に戻れない、親戚筋の葬儀に出席できない等ストレスが溜まる事が多かった。結局は精神面のケアを自分自身で行うしかない。

#### ◆SARSのプラス面

##### -衛生観念の向上

香港の一般市民の健康、清潔面への認識が高まったことは良かったのではないかな。

少しは中国人社会での衛生観念が高められた(良かった点)

##### -支えあい 連帯感

香港人が一体感を持って対応。

社内の団結心が向上したことは良かった点だ。

##### -IT技術の恩恵

Eメール、インターネットの普及により、正しい情報を即日に入手することが出来たことは良い点であると思う。

##### -その他

刻一刻と変化する状況下で組織を即断即決でマネシするという貴重な経験ができたこと、また、数名の駐在員が休日 昼夜を問わず意見 議論を重ねて顧客 会社従業員のために働けたこと、この2つが個人としても財産となったと感じている。

- ・ いい試練であり、たくましくなった。逆境時には順境時よりも知恵とエネルギーが出る。

SARS禍で発見したこと。日本からの出張者は不要(来なくても何の不都合も生じない)。→まだまだコスト削減できる。

着任直後だったので来客も少なく、落ち着いて構えることが出来た(プラスの点)

- ・ 家族とはなれて暮らすと一人の時間を享受できる事。家族の絆について改めて考えることができること等、たくさん良い面があった。
- ・ 家族や友人の励まして、孤立した困難な時期を乗り越えられたと感じています。

#### ◆中国と香港

- ・ 中国と香港での対応の差を感じた。例えば中国ではマスクを着用している人が少ない。香港のほうが全体に敏感。

香港への渡航が徐々に自由化されていることから、今後中国本土の住民が多く香港に観光等で来ることとなります。非合法の移動も今後増えることになるので、より一層香港の中国化が進むのでしょう。SARS禍もその悪影響の一つの顕れかと思えますが、益々香港が住みにくい場所になるのではないかと思います。

香港の夏は暑く、マスクなんかしてられない

#### ◆その他

-SARS 再発に関して

- ・ 再発だけが心配

冬に向け、注意を怠らず、再発した場合、適切な対応を関係当局は取るべき。

-情報の大切さ

正しい情報の収集と事前の対応が最も重要だと思われる。また、情報は入手するだけでなく、発信もしなければならない。「情報」は大事であるか、こわいものである。

-欧米企業との差

欧米系企業は初め(本国への退去)も終わり(現地への復帰)もきわめて早い(スピーディー)。それに比べ、日本政府、日系企業の対応はどちらも非常にスロー。

-隔離への恐れ

自己管理していても同じ機内、車内で感染者か(又は疑いのある人)出た場合、隔離される恐れがあった。

資料2「SARS への個人の対応アンケート」調査結果<家族、n=70>

ロ)性別

性別	人数	%
男性	0	0.0%
女性	69	98.6%
無効回答	1	1.4%
合計	70	100.0%

ハ)×年齢

年齢	人数	%
25-29	5	7.1%
30-39	42	60.0%
40-49	16	22.9%
50-56	6	8.6%
無効回答	1	1.4%
合計	70	100.0%

ニ)×職業

職業	人数	%
1)専業主婦	69	98.6%
2)フルタイム ワーカー	0	0.0%
3)パートタイム ワーカー	1	1.4%
合計	70	100.0%

ホ)×駐在員と共に香港に住む家族の構成

家族の構成	人数	%
おとなと子ども (学齢前の子含む)	28	40.0%
おとなと子ども (学齢期の子のみ)	17	24.3%
おとなのみ	25	35.7%
合計	70	100.0%

ヘ)×香港滞在年数

香港滞在年数	人数	%
1年未満	15	21.0%
1年以上2年未満	20	29.0%
2年以上3年未満	11	16.0%
3年以上4年未満	12	17.0%
4年以上5年未満	4	6.0%
5年以上	3	4.0%
無効回答	5	7.0%
合計	70	100.0%

ト)香港以外の海外駐在経験

香港以外の 海外駐在経験	人数	%
あり	29	41.4%
なし	40	57.1%
無回答	1	1.4%
合計	70	100.0%

×印の項目は2003年4月1日時点の状況。

チ)×居住地区

居住地区	人数	%
香港島	65	92.9%
九龍	3	4.3%
新界	1	1.4%
その他	1	1.4%
合計	70	100.0%

その他 ランタオ島

リ)×居住環境

居住環境	人数	%
マンション	70	100.0%
一戸建て	0	0.0%
その他	0	0.0%
合計	70	100.0%

A SARS が流行する前（3月半ば以前）の自身の状況

非常にあてはまる（1）かなりあてはまる（2）  
少しはあてはまる（3）まったくあてはまらない（4）

	1	2	3	4	無効 回答	合計
【1-a】 香港での駐在生活でストレスがたまり かちだった	3	2	37	27	1	70
	4.3%	2.9%	52.9%	38.6%	1.4%	100.0%
【1-b】 日本に帰りたと思っていた	1	1	20	47	1	70
	1.4%	1.4%	28.6%	67.1%	1.4%	100.0%

B SARS 流行当時（3月半ば～5月末）の自身の行動や考えおよび周囲の状況

【2】 香港を離れる事があったか

	人数	%
1) ずっと香港を離れていた	12	17.1%
2) ほとんど香港を離れていた	34	48.6%
3) 時々香港を離れた	12	17.1%
4) 全く香港を離れなかった	12	17.1%
合計	70	100.0%

【3】 【2】て 1)、2)、3)のいずれかと答えた人 当時日本に一時帰国したか

(n=58)	人数	%
1) はい	57	98.3%
2) いいえ	1	1.7%
合計	58	100.0%

1)「はい」と答えた人 a)帰国中の主な滞在先 (n=57、重複回答)

帰国中の主な滞在先(n=57 重複回答)	人数	%
ア) 実家	49	86.0%
イ) 自宅	4	7.0%
ウ) ホテルやウィークリーマンション	6	10.5%
エ) 会社の寮	4	7.0%
オ) その他	3	5.3%

その他(3名)

配偶者の実家 2名

妹のマンション 1名

b)帰国中の体験 (n=56\*、重複回答)

帰国中の体験(n=56,重複回答)	人数	%
ア)香港帰りということによる問題は特になかった	22	38.6%
イ) 局中の香港から離れ、安心して過ごせた	23	40.4%
ウ)帰国先で同居した人とのコミュニケーションに苦労した	10	17.5%
エ)外出するとご近所の視線が痛かった	8	14.0%
オ)こどもの体験入学を断られた	3	5.3%
カ)体験入学を断られはしなかったが手続き中に嫌な思いをした	5	8.8%
キ)その他	16	28.1%

\* 前項 57 名の内本項目では 1 名無回答ゆえ n=56

その他

騒ぎの前から帰国していたので全然問題はなかった

病院にかかるときの病院の対応など教育委員会の対応もとても辛かったです  
人間ドックを受診できなかった

風邪気味だったが病院に行きつらかった

病院の待合室に隔離された(風邪などの病気ではなく妊娠中の検診

香港から帰国しているということをごどこに行っても口に出来なかった

体験入学を断られると思い、香港帰りを内緒にした

香港帰りという事で肩身が狭かった  
 香港滞在というこちらのほうが気にして、外出外食など控えた  
 実家や近所は問題なかったが美容院や会食先のレストランなどで視線が痛かった  
 近所の人とのコミュニケーションに苦労した  
 知らない人には香港帰りということは言わないようにした。知人の多い実家は避け  
 妹の家でお世話になった。体験入学はしなかったが、日中子ども連れて歩くと目立  
 つので外出は夕方以降にした  
 ほとんど外に出られなかった  
 社宅での母子の仮住まいにストレスを感じた。疎外感を感じた。  
 いつ香港に戻れるのか不安な毎日を過ごした  
 インターネットによる授業(international school)を家で受けさせるための負担が大き  
 かった

【4】【2】で4)「全く香港を離れなかった」と答えた人、【3】で2)「いいえ」と答えた人  
 当時、既にあったご自分の一時帰国予定を延期又は中止したか

n=13	人数	%
1) はい	4	30.8%
2) いいえ	2	15.4%
3)そもそも一時帰国の予定はなかった	6	46.2%
無回答	1	7.7%
合計	13	100.0%

延期又は中止の理由(n=4、重複回答)

延期又は中止の理由(n=4、重複回答)	人数	%
a) 万が一自分が感染源になることの原因を感じた	4	100.0%
b) 10日間自主隔離できる場所がなかった	0	0.0%
c) 帰国先から断られた	0	0.0%
d) その他	1	25.0%

その他(1名)

香港にいるほうが安全だと思ったから

【5】 身近に感染者または疑い例が出たか

身近な感染者	人数	%
1)出た	12	17.1%
2)出なかった	58	82.9%
合計	70	100.0%

出た場所(n=12、重複回答)	人数	%
a) 住んでいるマンション	4	14.3%
b) 配偶者の職場	5	17.9%
c) 配偶者の取引先	0	0.0%
d) その他	5	17.9%

その他 配偶者の職場の同じビル、配偶者の勤務先の近くのマンションから集団発生、すぐ近くのマンション、子どもの学校、配偶者の趣味のサークル

【6】 SARS から身を守るためにしていたこと (n=68、重複回答)

順位	SARS 予防のためにしていたこと(n=68*、重複回答)	人数	%
1	4) 外出後のうがい 手洗い	67	98.5%
2	1) 外出時のマスク着用	65	95.6%
3	12) 買い物は頻度を減らし、まとめ買った	49	72.1%
4	14) SARS 情報の入手	46	67.6%
5	3) 外出時の消毒用品の携帯	41	60.3%
6	8) ハランスの取れた食事	39	57.4%
7	9) 十分な睡眠	37	54.4%
8	13) 外食先は信頼がおける店に限定した	30	44.1%
9	6) 希釈した漂白剤での家の拭き掃除	26	38.2%
10	7) 下水道の消毒	15	22.1%
11	11) こまめな検温	13	19.1%
12	10) 適度な運動	12	17.6%
13	5) 外出後のシャワー	6	8.8%
14	2) 外出時の手袋の着用	5	7.4%
14	15)その他	5	7.4%

\*無回答 2 名は、15)「その他」にも記載がないことから、予防策を 1 つも講じなかったのではなく、「回答をしなかった」人と判断し、n=68 とした。

その他 (5 名)

- ・ ほとんど外食はしなかった  
不特定多数の人が出入りするところを避けました  
人が多く集まる場所特に中国人、に行くのを避けた  
子どもの外遊びはしなかった
- ・ 病院での受診を避けた

【7-a】 公共の乗り物を利用する時にしていた注意 工夫（自由記述）（回答率 86%）

乗り物の選別

公共の乗り物は利用しないようにした

出来るだけタクシーを使うようにし、大勢の人との接触を避けた

- ・ 地下鉄やバスには一切乗らず、外出時は全てタクシーを利用
- ・ 大きいバスには乗らないようにした。

普段利用していた乗り物も歩ける距離のものは利用しないようにした。

シャトルバスを利用(ミニバスなどより利用者の顔が見える)

利用時の注意

せきをしている人が居たら離れる。エレベーターのボタンは指の関節で押す。

マスク。消毒を繰り返し、とにかくその場から早く離れました

MTR(地下鉄)を避け、タクシー及びミニバスを利用し、窓を開けて乗った。

体や手が直接シートやつかまるところに触れないようにした。

マスク、手袋、混んでいる ترام、地下鉄には乗らない

マスクを不着用の人のちかくには座らないようにした。

他の乗客からてきただけ離れる、出入り口付近に立つ

マスクを着用し、子ども達にも不用意にあちこちさわらないよう指導し、外出先では目をこすらないように指導した

外出後のうがい手洗い

その他

- ・ 別になし

【7-b】 SARS 流行当時、外出を必要最低限に控え、家にいることが多かったか

	人数	%
1) はい	58	82.9%
2) いいえ	7	10.0%
無回答	5	7.1%
合計	70	100.0%

1)「はい」と答えた人 a) 家にいた期間(n=58)

(n=58)	人数	%
1)1ヶ月未満	32	55.2%
2)1ヶ月～1カ月半	19	32.8%
3)1カ月半以上	7	12.1%
合計	58	100.0%